

第二主日礼拝

午前 10:30-11:30

(YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 ヨハネの福音書 4章 23-24節 (新約 183)

賛 美 すべての人の主 (教会福音 49)

斉 読 詩篇 117篇 1-2節 (旧約 1058)

主の祈り・使徒信条

聖書朗読 使徒の働き 3章 17-26節 (新約 236)

牧者公祷 (換気を行います)

説 教 『回復の時が来て』

松井 元始 牧師

応答のとき

賛 美 とこしえの父の神に (教会福音 371)

感謝祈禱

頌 栄 父・子・聖霊の (教会福音 271)

祝 祷

後奏・黙祷

*

*

*

報 告

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉

明兄

〈奏楽〉

牧子師

〈受付〉

〈聖書朗読〉

司会者

〈感謝祈禱〉

配信をご覧になれない方には CD を後日お届けできます。お申し出ください。

インマヌエル王子キリスト教会

牧師: 松井元始・牧子

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>E-mail: immanuelojichurch@gmail.com

銀行振込: みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



『回復の時が来て』 (使徒の働き 3章 17-26節) 2023.6.11.

〈はじめに〉 美しの門に座らされていた足の不自由な人が、立ち上がり歩き、神を賛美する者へと変えられました。これを不思議がって群がる人々に、ペテロは解き明かしを語り出します。「十字架で殺され、しかし神がよみがえらせたイエスの名を信じる信仰のゆえです」と。

I 過去の表裏(17-18)

①さて兄弟たち(17)

群衆の大半は先頃の十字架の目撃者、指導者たちの扇動によって「十字架につける」と叫んだ当事者です。ペテロは彼ら自身の過去の行いと心に話題を向け、それが無知から出たものであると指摘します。彼らは何に対して無知だったのでしょうか。

②予告の実現(18)

十字架の出来事は偶発ではなく、神がすべての預言者を通して予告されていました。ユダヤ人なら聞いていたはずなのに、彼らは悟ることなくそれに加担し、これによって預言は実現しました。このパターンは、語るペテロ自身も経験したことです(マタイ 26:74-75)。

③モーセの預言(22-24⇒申命記 18:15,17-18)

預言の代表例として、モーセのこぼをペテロは取り上げます。モーセを否定するユダヤ人などいません。そのモーセが言及している「一人の預言者」こそイエスに他なりません。このイエスは、罪に陥る「あなた」のために「あなた」の神が先備えされた救い主です。

II 今すべきこと(19)

①悔い改めて立ち返りなさい(19)

神を知り、帰依しているつもりでも、実は神に背いていたと気付いたなら、道は二つ、突き進むか、神に立ち返るかです。過去の罪を消したり無かったことに人はできませんが、神は罪を赦す方です(詩 130:4)。

②罪はぬぐい去られます(19)

神が預言者を通して予告されたのは、イエスの十字架と復活とともに、そこで露呈した人々の反逆と罪さえも赦すというご計画です。復活はその保証です。「ですから」「そうすれば」とペテロは人々に取るべき道をはっきりと語り示します。

③ペテロの経験(19)

「ですから」「そうすれば」は、ペテロの経験から出た確信のこぼでもあります。彼もイエスの予告を無視し、イエスを裏切り見捨てました。しかし、イエスはペテロに現れ、悔い改めて立ち返る機会を与えられました。このメッセージは今も経験者に委ねられています。

III 回復の時が来て(20-23)

①イエスを遣わして(20)

この「イエスを、主は遣わし」は、既に見たイエスの生涯ではなく、やがて救い主(キリスト)、王の王として再び来られることを指しています。それは新しい世界に切り替わる「万物の改まる時」です。この世の終わりは、イエスを信じる者にとって回復の時、慰めの時です。

②聖なる預言者たちを通して(21)

預言者たちは「終わりの日には...」と何度も語り、その厳粛な場面を描いています。今、私たちが生きる世界はやがて必ず限界が訪れます。それは私たちには悩み・苦しみの日々に映りますが、神はその日のために、救い主イエスを天に待機させておられます。

③イエスに聞き従え(22-23)

神のこぼは確実に実現する、ということ、ペテロもエルサレムの人々も、失敗を通して深く学びました。私たちはどうでしょうか。悔い改めて神に立ち返った者は、「あなたはわたしに従いなさい」(ヨハネ 21:22)と語られるイエスが告げるすべてに聞き従います。

〈おわりに〉 これまでの歩みと今の現実を自分の視座から見ただけでは、一面しか見えません。自分とは異なる視点から、広く深く長く見ておられる神のこぼに耳を傾けましょう。そうすれば、同じものを見ながらも、全く異なる新しい世界が見えてきます。(H.M.)